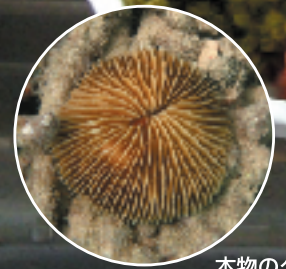


守る 豊かな海を
島人の宝



本物のクサビライシ

石西礁湖自然再生ニュースレター
2010.3 Vol.12

石西礁湖

自然再生

▲協会の大堀委員作「海の生き物アクリルたわし(クサビライシ)」
(第12回協議会「この1年でやったことアンケート」より)
洗剤なしでも食器やキッチンの汚れをピッカピカに洗い落とせます。

石西礁湖はいま シリーズ ⑫

やったこと(抜粋)	
異常気象対策	太陽光発電の設置や導入の検討
	無駄な電気は使わないように、不用な部屋は消灯
	電球を蛍光灯タイプやLED電球に買い替え
	クーラー無しや、設定温度28℃
	自転車通勤
	自動車通勤でも、2人で利用
	一人で移動するときは車より燃費のいいオートバイに乗る
生活スタイルの改善	自家用車を低燃費車に変えた
	通勤は公共交通機関(バス)
	できるだけ地元でとれた農水産物を食べる
排水等対策	買い物はマイバッグを持参し、レジ袋は使わない
	生ゴミは処理機で分解
	食べ残しをしない
意識の向上	無添加のシャンプーを使用
	洗濯や食器洗いには合成洗剤を使わない
	風呂の残り湯を洗濯に使用
意識の向上	年賀状にサンゴ礁の写真を使った
	海(サンゴなど)のテレビ番組を子供と一緒に見て、問題点などを考えた
	子供の学校の宿題、課題などで、海の生き物などを観察した

平成22年2月の第12回石西礁湖自然再生協議会に先立ち、協議会委員のみなさんに、「この1年でサンゴのことを想ってやったこと」についてアンケートしました。

様々な「やったこと」が寄せられましたが、日常生活の中で私たちがすぐ始められる取組もたくさんありました。

左の表のうち、もし、まだ「やってないこと」があったら、サンゴ礁の島に住んでいる方も、そうでない方も、できることから始めてみませんか？

石西礁湖自然再生協議会委員が
この1年でやったこと

八重山の海と大地の恵みを 観て、聴いて 実感しました!



平成22年23月14日(日)、とうも〜ネットセンター石垣でイベント「八重山の海と大地の恵みのつどい(主催:環境省那覇自然環境事務所)」が開催され、のべ250名以上の方々にご参加いただきました。当日、美しいサンゴ礁の映像、島人によるアコースティックライブ、島の恵み抽選会、子どもたちによる学習発表会などで、八重山の海と大地の恵みについて楽しみながら地域のみなさんに再認識していただきました。



“八島っ子サンゴ礁保護条例”の発表

●島唄アコースティックライブ

彩風の仲田かおりさん

八重山で活動するアーティストの歌を通じて、故郷の島の海と大地を感じてもらい、サンゴや大地などの“島人の宝”を感じました。



●トークセッション

「八重山の海と大地の恵みが拓く未来〜海と大地の交流〜」をテーマに、6人のパネリストから、八重山の海と大地の恵みやその移り変わりや、それらを守るためのみなさんの活動について紹介いただきながら、語り合っていました。



コーディネーター

●恵 小百合氏(持続可能な美ら島農業推進協議会委員)

パネリスト

- 池田 元 氏(八重山漁協沖縄県指導漁業士)
- 平田 睦 氏(石垣市商工会経営指導員)
- 上村 真仁氏(WWFサンゴ礁保護研究センター長)
- 砂川 拓也氏(石垣市青年農業士)
- 板橋 雅樹氏(八重山ダイビング協会事務局長)
- 仲田かおり氏(彩風/石垣在住アーティスト)

●海の環境学習発表会

石垣市立八島小学校5年2組のみなさん
海やサンゴに関する1年間の環境学習から、八重山の自然に何を感じたか、八重山について何を思ったかを発表してもらいました。

●展示

石垣市立富野小中学校のみなさんが作った海の環境学習壁新聞や八重山の過去と現在の写真展、著名人からのメッセージを展示しました。



富野小中学校壁新聞
“仲間とともに地域とともに”

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住 所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内
【電 話】0980-82-4768 【F A X】0980-82-0279
【E-mail】okironc@coremoc.go.jp 【石西礁湖ポータルウェブサイト】http://sekiseisyouko.com

石西礁湖自然再生協議会は、豊かなサンゴ礁生態系を取り戻したいという熱い思いを持った、地元住民、市民団体、漁業や観光関係の団体、研究者、行政機関など多様な主体が集まり、平成18年2月に発足し、様々な取組を進めています。

石西礁湖サンゴ礁基金を使った 自然再生活動が始まります！

平成22年2月19日(金)、第12回石西礁湖自然再生協議会を沖縄県八重山合同庁舎(旧八重山支庁)で開催しました。今回の協議会には計64名の方が出席し、活発な議論が展開されました。

昨年7月に設置した「石西礁湖サンゴ礁基金」について、基金運営委員会代表の恵委員から、運営委員会等で検討を重ねてきた、基金を活用することに関する規程等について説明がありました。

今後は、規程に沿って基金を使った活動が始まることとなり、石西礁湖の自然再生活動が、さらに活性化することが期待されます。

基金に関する議題のほかには、「石西礁湖自然再生全体構想」の取組状況を踏まえた石西礁湖の現状についての説明、委員の「この1年でやったことアンケート」の結果報告、生活・利用に関する検討部会の報告、地域委員会(仮称)の報告、自然再生連絡会議(西日本)の報告、自然再生専門家会議現地調査の報告、サンゴ礁生態系保全行動計画(案)の概要の説明などがありました。



【基金運営委員会からの報告】



【会議の様子】

協議会の資料・議事概要等は、石西礁湖ポータルウェブサイト(<http://sekiseisyouko.com/>)でご覧いただけます。

石西礁湖サンゴ礁基金の用途

基金は、「石西礁湖自然再生全体構想」の中で石西礁湖自然再生の目標を達成するために展開すべき取組として位置づけられた次の内容及び基金の運営費に使われます

①攪乱要因の除去

サンゴ礁生態系は、人為的活動やそれに関連する現象によって大きな影響を受けています。

オニヒトデ対策、赤土流出防止対策など攪乱要因を除去するための取組を実施します。

②良好な環境創成

衰退したサンゴ礁生態系を回復するためには、攪乱要因の除去による効果が出るのを待つだけではなく、積極的に良好な環境を創り出していくことも必要です。サンゴ礁・沿岸域の生態系の再生や環境に配慮した海域における構造物の整備を行います。

③持続可能な利用

石西礁湖では、漁業、観光業、海上交通等様々な地域活動が営まれています。石西礁湖の保全・再生の主体は地域に住む人々であり、生活や産業の維持・活性化

化と自然再生の両立を目指す必要があり、適切な利用の推進や保護区等の指定を検討します。

④意識の向上・広報啓発

サンゴ礁生態系の保全の関係者は多岐にわたることから、関係者の意識の向上、広報啓発を進めていきます。

⑤調査研究・モニタリング

サンゴ礁生態系の状況や変化を把握するための調査研究やモニタリング、効果的な取組手法等に関する調査研究を進めていきます。

⑥活動の継続

目標を達成するためには、以上に例示したような取組を継続して行う必要があります。そこで、民間による活動の推進・支援や取組に関する広報を通じ、地域の内外の多くの協力者・理解者を得て自然再生を継続的に推進していきます。

こんなことやります!

活動の例

サンゴ礁でのルールを伝えるためのリーフレットの作成など

観光手法の改善

オニヒトデの効果的な駆除など

オニヒトデ等による食害及びサンゴの病気への対応

漂着ゴミや廃油ボール等の回収処理など

漂着ゴミ対策

農地へのグリーンベルトや緑肥植物の植え付けなど

赤土等流出防止対策

八重山高校から基金へ寄付をいただきました。



第12回石西礁湖自然再生協議会では、八重山高校3年6組から石西礁湖サンゴ礁基金へ寄付をいただきました。昨年9月の八重高祭でフリーマーケット「美ら海マーケット」を開いて得た売り上げということで、来場者にポスターで基金についてPRするとともに、石垣島の海について関心を持ってもらうよう工夫したことについて発表いただきました。贈呈式には、代表者の浦内菜さんと石垣章子さんが出席し、「八重山の海を守るため、有効活用してください」と土屋誠会長に寄付金が手渡され、協議会事務局からCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)のロゴが入ったエコバッグをプレゼントしました。

